

# 岩手県 グループホーム水沢コスモス 自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	重要事項説明書に明記している。	○
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日々の話し合い、毎月の合同会議、年4回のパーティ等で確認合っている。	○
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	年4回のパーティ、家族介護者教室、家族参観日、小学5年生の体験学習、保育園児の訪問等で、法人の理念を説明し、実践している。	○
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	散歩や買い物、町内会の回覧物、法人の夏祭りの開催などで地域との交流に努めている。	○
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会への参加、地元振興会の会員など、佐倉河地域の一員として参画し、交流している。	○

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	数年来、地元小学校の体験学習の講師を勤めたり、在宅介護支援センター主催で家族介護者教室を開催したりしている。	○	
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の前に職員全員で自己点検をし、評価の後は結果を共有し、向上できるよう努めている。	○	
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	まだまだご家族からの意見がもらえない状況にある。現状は、事業所からの説明や報告にとどまっている。	○	ご家族や地域の方々のご意見を頂戴できるようになりたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	不定期の実地指導を受けている。	○	
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	既に利用されている方もいたし、現在利用中の方もいる。利用に至るまでの過程で、私たちはこの制度について学ぶ機会を得、支援の重要性も理解した。	○	ご家族間の軋轢の巻き添えを食って、不快な思いをさせられたこともあった。毅然として公平、中立を保つことが最終的に利用者への最大の支援であることを再確認できた。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	どのようなことが虐待なのかを知らなければ、虐待防止はできない。日々のニュースの切抜きなどをそのまま教材として使い、常に教育の機会を持っている。	○	身体拘束だけを虐待と捉えることのないよう、管理者は自ら学習し続けなければいけないことを自覚している。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書で説明し、さらに重要事項説明書で理解を深めてもらっている。	○
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	市町村窓口のほかに、岩手県福祉サービス運営適正化委員会や、法人独自に第三者委員を委嘱していることを、重要事項説明書で説明し、ご意見を反映する機会が複数あることを説明している。	○ 日々の記録に利用者の言葉を記録する欄がある。些細な言葉も漏らさず拾い上げる仕組みがある。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	金銭管理は、誤解防止のため、やっていない。そのほかのことは、メールやファクシミリなど記録に残せる形で随時報告し、定期の報告は、年4回のパーティで行っている。	○ 金銭に限らず、介護保険証や健康保険証、預金通帳など本人の重要財産は一切預かっていない。今後もこの姿勢は変えない。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	市町村窓口のほかに、岩手県福祉サービス運営適正化委員会や、法人独自に第三者委員を委嘱していることを、重要事項説明書で説明し、ご意見を反映する機会が複数あることを説明している。	○ 日々の記録に、ご家族からの言葉を記録する欄がある。些細な言葉も漏らさず拾い上げる仕組みがある。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日のミーティング、毎月の会議、復命書、企画書、決裁書などで多くの意見や提案を聞く機会を設け、運営に反映させている。	○
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	日々の記録に、本人、ご家族からの言葉を記録する欄を設けている。必要に応じて、法人の4つの事業所で調整できる体制にある。	○
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	夜勤を中心として、全職員が関わりを持つ体制にある。異動等があっても、顔見知りの関係が保たれるようにしている。新人は概ね2週間のトレーニング期間を設定して、馴染みの関係作りをしている。	○

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
<b>5. 人材の育成と支援</b>				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	グループホーム全国大会には、毎年交替で、演題を持って参加している。	○	長期の計画に基づき、理事長、管理者、リーダーを交えての検討を重ね、演題発表までたどり着く。全国大会への参加は、総合的な研修として、当会でもっとも重要な位置を占めている。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	家族介護者教室、パーティ、夏祭りなどには必ず情報を発信し、参加を呼びかけ、事業所相互の交流の機会作りを積極的に行っている。法人のホームページにも、最新情報を掲載している。見学も正式な申し込みには応じており、その際には情報交換を行っている。	○	プライバシーの保護に関して意識が低く、勝手に突然見せてくださいという同業者が後を絶たない。欧米並みに、アポイントの必要性を理解してもらえるよう、啓蒙を続けていかなければならないことを痛感している。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	理事長は、産業医である。管理者は、精神保健福祉士である。これ以上の職場環境はないと自負している。	○	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	最低、年2回の人事考課を実施している。	○	
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用申し込みを頂き、利用開始に至る間に、自宅に伺い、本人の口から思いを聞き、本人の生活の実態を把握する機会を必ず作っている。	○	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用申し込みを頂き、利用開始に至る間に、ご家族に入居時調査票を記入していただき、実態を把握する機会を必ず作っている。	○	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用申し込みを頂き、担当介護支援専門員や包括支援センター等への問い合わせを必ず行い、他の支援方法を探っている。	○	
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用申し込みを頂き、利用開始に至る間に、自宅に伺い、本人の口から思いを聞き、本人の生活の実態を把握する。さらに、ご家族に入居時調査票を記入していただき、二重三重の実態把握の上で、支援を開始している。	○	
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	『そうですね、いいですね』と利用者の全てを肯定することが良いことではない。健全な精神活動では、利用者に叱られたり、職員が反抗したり、あるいは他の職員がとりなしたりすることが、重要であると教育している。	○	
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	年4回のパーティ、家族介護者教室、家族参観日、などを通して認知症介護は、家族とともに築いていくものであることを伝えている。	○	
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	利用開始に際し、ご家族に入居時調査票を記入していただき、様々な角度から実態を把握している。	○	
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用開始に際し、ご家族に入居時調査票を記入していただき、様々な角度から実態を把握している。	○	
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	親密な関係だけが関わり合いではない。険悪な感情の表出も重要な精神活動であることを理解し、関係把握に努めている。	○	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	通所介護に切り替えた利用者や、お亡くなりになった時には葬儀で弔辞を読んだり、息子さんが母の日に訪問してくださったり、様々な交流が続いている。	○	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用開始に際し、ご家族に入居時調査票を記入していただく。入居後調査票は担当職員が記入し、検討を続けている。	○	
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用開始に際し、ご家族に入居時調査票を記入していただき、様々な角度から実態を把握している。	○	
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	入居後調査票を、担当職員が記入し、決められた手順で見直しをしている。	○	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用開始に際し、ご家族に入居時調査票を記入していただく。入居後調査票は担当職員が記入し、検討を続けている。その間、ご家族の訪問の都度、ご意見を聞く機会を設けている。	○	
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	入居後調査票を、担当職員が記入し、決められた手順で見直しをし、管理者が評価し、ご家族に確認してもらっている。	○	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	本人の行動、言葉、そのことについての職員の関わり、結果をそれぞれ時系列で記入できる個別の支援記録を作成し活用している。	○	
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている		○	当事業所は、小規模多機能サービスではないので、入居前の担当介護支援専門員や包括支援センターなどに問い合わせることで対応している。
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している		○	当事業所は、小規模多機能サービスではないので、入居前の担当介護支援専門員や包括支援センターなどに問い合わせることで対応している。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている		○	当事業所は、小規模多機能サービスではないので、入居前の担当介護支援専門員や包括支援センターなどに問い合わせることで対応している。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している		○	当事業所は、小規模多機能サービスではないので、入居前の担当介護支援専門員や包括支援センターなどに問い合わせることで対応している。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居に際し、かかりつけ医を変えてもらったことは無い。緊急時には、連携医療機関である奥州病院の協力をいただいている。	○	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	精神科の木村医院が連携医療機関の一つである。	○	
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	日常的には、当会の看護師が関わっている。その他に、訪問看護ステーションと契約している。	○	
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	医療機関受診時には、当会から直近の健康状態情報を出している。本人は自分の状態を伝えることができず、ご家族も本人状態を把握していないので、当会が橋渡しを努めている。	○	ご家族が強行に無断転院し、当会と病院との連携を絶たれたことがあった。最終的には、ご家族意向に従わざるを得ない現実がある。
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	いきなり重度化するわけではない。段階を踏まえて、ご家族に説明し、ご意見やご意向を頂戴し、記録し、定期の職員会議で共有している。	○	
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	いきなり重度化するわけではない。段階を踏まえて、ご家族に説明し、ご意見やご意向を頂戴し、記録し、徐々に『その日』に備えている。	○	重度化や終末期の介護について、十分な報酬が必要である。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	これまで、住み替え時には、当会からサマリーを提供してきた。しかし、返事が来たことは皆無である。	○	情報交換について、介護事業者の意識が低いと感じている。医療機関では、紹介状への返事は当然の行為である。1行でいいので、ご本人の近況報告をもらいたいものだ。



項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p> <p>入居前調査票によって、お一人おひとりが、何に傷つくのか、何を誇りとしているのかなどを把握するよう努めている。</p>	○	職員採用時に、個人情報保護に関する誓約書を徹している。
51	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p> <p>入居前調査票によって、お一人おひとりが、どのような希望を持っているのか、どのような納得の仕方をするのかなどを把握するよう努めている。</p>	○	
52	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p> <p>入居前調査票によって、お一人おひとりが、どのような生活リズムを持っているのか、どのような過ごし方をしたいのかを把握するよう努めている。</p>	○	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p> <p>入居前調査票によって、行きつけの理美容院を把握している。本人、家族の記憶を頼りにお店を探したこともある。</p>	○	
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p> <p>入居前調査票によって、お食事の好みを把握している。咀嚼や嚥下機能が低下していても、最後まで食の楽しみを失わないように支援している。</p>	○	認知症の症状の一つに、摂食困難がある。一切の食べものを受け付けない症状を呈するのだが、まだあまり知られていない症状のため、ご家族等に理解してもらいにくく、対応に苦慮することが多い。
55	<p>○本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p> <p>入居前調査票によって、嗜好品を把握している。しかし、健康増進法や『やすらぎの里』火災事故のこともあるので、タバコは認めていない。お酒は、人によっては、アルコール由来の認知症もあるので、注意深く対応している。</p>	○	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	おむつ使用は、原則行っていない。また、グループホーム水沢コスモスは開設以来8年を経過し、尿便意を失った方もいるが、それでもなお、トイレ誘導を行って、排泄の場所と生活の場所とを区別した支援を継続している。	○	同じ理由から、ポータブルトイレの持込みは認めていない。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的に、入浴は毎日、午後に行っている。しかし、グループホーム水沢コスモスは開設以来8年を経過し、機械浴に頼らなければならない方もいて、隣接するデイサービスセンター水沢フィランの大きな風呂を借りる方もいる。	○	
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	入居前調査票によって、入眠の状況や午睡の習慣を把握している。しかし、長期利用に伴って、認知症の程度が進み、2日寝て、1日活動して、というように24時間単位の生活をこなしている方もいる。	○	1日が24時間ではない方の支援は、はじめは戸惑いが大きかったが、それも個性と捉えられるようになった。
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居前調査票によって、生活歴の把握に努めている。その他に、買い物や誕生会の準備、パーティの際のご発声など、様々な役割りを担っていただいている。	○	
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	大金を渡されても、しまい忘れてしまう。お金が見えなくなると、『盗られた』と騒ぎ、職員を名指して泥棒呼ばわりする。紙のお金がないと不安になる方もいる。飴を買ったり、誕生日のプレゼントを買いに行ったり、ささやかな楽しみごとでの支援をしている。	○	
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	勝手に出て行く方もいる。しかし、今は寒い時期なのでむしろ出たがらず、戸外に連れ出すことに腐心している。	○	お日様の出ている日は、散歩を楽しんでもらいたいが、なかなか出たがらない。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	プロ野球見物をしたいという希望に応えたことがあった。ADLの低下と共に、遠出も叶わなくなっているが、アリスやフィランと合同で外出の機会を作っている。	○	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	開設以来8年を経過し、家族も訪ねてこなくなった方もいる。電話も分からず、書字能力も無くなってはいるが、支援は続けたい。	○	
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	開設以来8年を経過し、家族も訪ねてこなくなった方もいるが、あきらめずに、支援は続けたい。	○	ご家族から、友人や知人には合わせないようこと指示が出ている方が多い。ご家族意向には逆らえない。
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	特に、向精神薬の服用に関して、グループホーム大会で発表したこともあるほど、深く取り組んでいる。	○	
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	管理者は、精神保健福祉士である。精神科医もしくは精神保健福祉士がいなければ、施錠できないことを理解している。	○	
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	国際的には、内部の安全ではなく、外部から侵入してくる安全対策がより重要である。国際的な視野にたった安全配慮をしている。	○	
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	危険回避は、最終的には保険で担保されるのが国際的な考え方である。必要十分な保険に加入している。	○	
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ハインリッヒの法則に則り、ヒヤリハット報告書を徹底検証している。かつ、必要十分な保険に加入している。	○	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	体温計、血圧計、パルスオキシメーター等を常備し、急変時のデータ採取、その後の連絡手順等トレーニングしている。	○	グループホームでは、応急手当よりも専門スタッフへの速やかな連絡と応援が望まれる。そのためにも、基礎データの採取は重要である。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的な避難誘導訓練を行っている。同一敷地内に複数施設があり、24時間協力が得られている。	○	
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	ADLは徐々にあるいは何かをきっかけに低下もしくは変化する。変化が起こった都度、ご家族に説明している。	○	同居していないこともあって、『そんなはずは無い』と納得してくれないご家族が多い。根気良く説明を続けなければいけない。
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日の支援記録に、健康チェック欄がある。1日1ページで記録しているので、いつから変化したのか、誰が見ても一目瞭然であるようになっている。	○	
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬情報を保管し、薬は一人ひとり写真付の薬ケースに保管している。	○	
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排便状況を把握し、食材にはきのこやヨーグルトを欠かさない、また、座らせっ放しにしないなどしている。用に応じて、定例会議の議題にしている。	○	
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	食後の歯磨きやうがいを励行している。	○	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	時々、当会の栄養士に相談して、偏らないようにしている。医療機関受診時には、アルブミン値を測定してもらっている。	○	
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	スタンダードプリコーションを実行している。	○	
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	毎日、まな板や布巾の塩素漂白を行っている。食材の買い置きや買いだめはしない。	○	
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>				
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関は構造上見え難いため、ベランダを開放的にしており、天気の良い日は、アリスからの訪問もある。	○	
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	大きな天窓から雲の流れや隣家の杉の梢が見えたりしている。キッチンからは、煮炊きの音や匂いが漂ってくる。風呂場は家庭的な大きさと使いこなされたすのこがある。	○	
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	イギリス製の美しいソファで談笑したり、置き畳で密やかに身を隠せる空間がある。	○	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際に一気に完成せずとも、時間を掛けてご家族と本人とでお部屋を作り上げている方もおられる。	○	こちらからどんなに懇願しても、お部屋づくりにまったく興味を持たないご家族もいる。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	温度計、湿度計を配置し、記録している。	○	
<b>(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	足元の引っ掛かり等のないよう、スリッパは禁止している。	○	生活の場という観点からは、多少のバリアーがあるほうが良いと思う。国際的には、あえてバリアーのある居住空間作りが主流になっている。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	入居前調査票、入居後調査票でお一人おひとりの持てる力を探るよう努めている。個人持ちの老人車で自在に建物内を移動している方もいる。手すりの高さや構造は、工夫したものになっている。	○	
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	天気のいい日はベランダで昼食をとったり、日向ぼっこを楽しんだりしている。	○	

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

18年改正の結果、地域密着型サービスとして位置付けが大きく変えられた。また、やすらぎの里火災による法改正もグループホーム運営には大きな重荷となっている。開設時のハードルをあまりにも低く設定したことによって、グループホームが増えるだけ増えて、良質のグループホームが駆逐されかねない状況まできている。当奥州市内にも、定員超で運営されているユニットもあると漏れ聞いている。認知症介護は手間暇の掛かる気長な支援作業である。特養に比べても、満足な介護報酬とは言えない。このような不合理な条件下で、どこまで当初理念に忠実に全人的な介護が実践できるか、毎日が試練である。